

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2017年2月12日（日）

主 題：「神の安息に入りなさい」

ーみことばを信頼してー

テキスト：ヘブル人への手紙4章11～13節

はじめに

- ・一般的に、プロの音楽家多くはコンサートを開くことがあります。私たち聞き手の方は、すばらしい音楽にふれて心が感動し、また癒されるものです。それは私たちが毎月開いている「プレイズ・ワーシップ」がそうです。
- ・しかし演奏される当人は、大変です。プロであっても、コンサート度に毎回非常に緊張するそうです。彼らは発表会に向けて、何カ月もかけて心身を注いで準備します。そしてコンサート日に向かい、力を注ぐものです。
- ・コンサート当日には、クライマックス（頂点）に達するように、自分のコンディションを調整していくものです。したがってコンサート日が近づくにつれて、テンションは次第に上昇していきます。
- ・そしてコンサートが成功のうちに終わると、ほっとして「よくやった！」と安堵するものです。それから「慰労会」と称して「打ち上げパーティ」開き、感謝の心と喜びを分かち合います。その時のテンションはかなり高いものでしょう。なぜなら自分の力が十分に発揮され、コンサートは盛会となったからです。
- ・皆さん。私たちは勤勉な労働の後には、心地よい安息（平安）の時がきます。同じように、1週間苦しみや戦いの中で、勤勉に働いた人が迎える安息は、本当に心地よいものです。これは私たちが経験する真理です。天国においても、それと同じような真理があります。
- ・地上生活で信仰を働かせ、力を尽くした者には、天の御国で永遠の安息が用意されています。ヘブル人への手紙の著者は、私たちにやがてたどり着くゴールを見せてくれます。そしてその安息に入るために、従順な信仰生活を送るよう読者を励ましました。
- ・私の好きな聖句です。 **その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』** マタイ25:21
- ・今日のメッセージのテーマは、労働の後にくる「神の安息」についてです。次の2点から語ります。

大切なポイント

1. イスラエルの民を見なさい

4:11 ですから、私たちは、この安息にはいるよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。

1) 出エジプトした民

- ・紀元前1280年ころ、イスラエルの民はモーセに率いられてエジプトから脱出しました。当時はエジプトが、世界を制覇し権力を握っていました。エジプトの王パロの一言で、世界は大きく動いた時代でした。イスラエルの民は、そこで400年間も奴隷として生活しました。
- ・そのイスラエルの民が出エジプトした際の様子、聖書に記録されています。 **民数記**

33:3 彼らは第一月、その月の十五日に、ラメセスから旅立った。すなわち過越のいけにえの翌日、イスラエル人は、全エジプトが見ている前を臆することなく出て行った。 新改訳

この聖句を口語訳聖書で読みますと、次のようです。

33:3 彼らは正月の十五日にラメセスを出立した。すなわち過越の翌日イスラエルの人々は、すべてのエジプトびとの目の前を意気揚々と出立した。 口語訳

- ・彼らは意気揚々とエジプトを出ました。彼らのその姿を想像してみてください。現代でも、長年支配したイデオロギーが崩れ、勝利した時、人々の姿は同じようですね。意気揚々と・・・。

{例 話} (写真提示)

- ・あの「ベルリンの壁崩壊」(1989年11月9日)、その後ソ連・東欧諸国の「鉄のカーテン崩壊」、チュニジアで起こった「アラブの春」など思いだしてください・・・。
- ・今それらの世界(国々)は、どうなっているのでしょうか? 新しい問題をかかえ、混乱と混迷を深めています。そして、人々は、「昔の方が良かった!」と語っています・・・。
- ・いったい、何が問題なのでしょうか・・・?
- ・人は本当の意味で、安息を求めています。「イデオロギーが代われれば、平和になる。」、「政治が代われれば、社会は平和になる。」、「指導者が代われれば、国はよくなる。」と期待します。しかし、皆さん。歴史はそれを繰り返しているではありませんか。
- ・真の安息、それは神のもとに出来ないかぎり与えられるものではありません。人間みな神に造られたからです。私たちの造り主である神のもとに帰らなければ、真の安息はありません。
- ・ところで、イスラエルの民はエジプトを出てどうであったでしょうか。彼らはシナイの荒野に入るや否や、不平不満を言う民となってしまいました。そして神の怒りを買って、シナイの荒野を40年もさまようことになってしまいました。彼は安息の地である約束の地カナンに入る前に、ヨシュアとカレブを除いて、全員が死んでしまいました(このことは既に学びました)。

2) 新約時代の民

- ・私たちは、このイスラエルの民を反面教師として学びました。それは何を教えている

でしょうか。⇒ イスラエルの民と同じように、福音を聞き、信じ、新しい希望ある人生を始めた者として、キリスト信仰を捨てることがないように、ということです。

- ・私たちの人生においても、不平、不満となる材料は多くあります。神から目が離れるならば、イスラエルの民と同じような経験をすることになりかねません。イエス・キリストは、この奥義を「たとえ話し」で教えられました。

① マタイ福音書7章

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。

7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

- ・もう一か所、みことばを読みましょう。

② マタイ福音書

13:18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。

13:19 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

13:20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。

13:21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

13:22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

13:23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

- ・皆さん。この二つの「たとえ話し」は何を教えているのでしょうか？

それは「福音をただ聞くだけでは、役に立たない」ということです。一時的な感情で信じても長続きはしません。福音を受け入れて、信仰を持って日々生きることが大切なのです。

- ・すなわち、旧約時代の事実は今の時代にも大切な真理を教えています。

「たとえ」(pabable:パラボレ)とは、「相並行する」という意味です。すなわち、自然界の真理と、神と人の関係は相並行するという意味です。これは当時の人たちには、たいへん理解しやすいことでした。

- ・ 私たちには今、旧約聖書と新約聖書の両方が与えられています。それは恵まれた時代です。なぜなら神の幸いなマスタープラン全貌を、知ることができるからです。しかし、その恵まれた時代にあっても、神の福音を信仰をもって受け入れる人と、受け入れない人がいます。私たちはいかがでしょうか。
- ・ では、どうすれば、私たちの本当の姿が見えるのでしょうか？ それが次のポイントです。

2. 信仰の姿勢を正す神のことば

1) 自分を見る最善の方法

- ・ 私たちがどのような者であるかを知る最善の方法は、心の鏡である聖書の前に身を置くことです。つまり心静めて聖書を読みますと、私たちはどの程度みことばに従い、歩んでいるかを知ることができます。

4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも指し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

- ・ 聖書によって、傲慢な者は謙遜になります。臆病な者は、勇敢な者に変えられます。自己中心な者が、隣人を愛するようになります。そして次第に、罪の性質が切り離されていきます。
- ・ 聖書によって、心の奥底にある企ては明るみに出され、汚れた動機は取り去られ、隠れたものが明るみに出されるようになります。聖書のことばには、それほどの権威があるのです。
- ・ 詩篇 139 篇の作者は次のように歌いました。

139:1 主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。

139:2 あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを 遠くから読み取られます。

139:3 あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。

139:4 ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。

139:5 あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。

139:6 そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高くて、及びもつきません。

139:7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。

139:8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。

139:9 私が暁の翼をかって、海の果てに住んでも、

139:10 そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます。

2) 恵みの時代に生きる聖徒

私たちは遅かれ速かれ、やがて神の前に立たされます。その時、私たちは裸で、すべてをさらけ出したままで、神の前に立たされます。神の前には何一つ隠れたものはありません。

- その神に対して、私たちは弁明（言い開き）しなければなりません。その日は不信仰な者にとっては、恐ろしい日となります。しかしイエス・キリストの十字架の贖いを信じ、信仰によって、忠実に歩んできた者は、神の安息に入ることができます。

- そこには、キリストが弁護者としておられます。 **I ヨハネ**

2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。

- このようにイエス・キリストは、私たちの地上の生活においても弁護者であります。そして、かの日にも弁護者として立ってくださいます。イエスは命を与えてくださるほど、私たちを愛してくださいました。そして今も、同じように愛してくださいています。ですから私たちの拠り所は、十字架にかかれたイエス・キリストです。このお方を仰ぎ、このお方を信じることです。

- 預言者イザヤは次のように語りました。 **イザヤ 26 章**

26:1 その日、ユダの国でこの歌が歌われる。私たちには強い町がある。神はその城壁と塁で私たちを救ってください。

26:2 城門をあけて、誠実を守る正しい民をはいらせよ。

26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

26:4 いつまでも主に信頼せよ。ヤハ、主は、とこしえの岩だから。

- 神のみことばは、私たちが身体的、霊的に守られるためには、「**主に信頼すること**」を教えています。イエス・キリストは次のように約束を与えてくださいました。 **マタイ福音書**

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたし のくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

- この聖句は、イエスのくびきを負って学ぶ者には、安息（平安）が与えられるという約束であります。

{例 話}

- 先日、私はディボーションの時、恵まれた証しを読みましたので、シェアさせていただきます。
- ある韓国人宣教師がロシア崩壊後、キリストの福音を伝えるためにロシアへ行きま

した。しかしながら、無神論主義が長年支配した国で、その宣教師は数多くの迫害を受けました。ある時、全身を殴られ道端に捨てられました。そして宣教師夫人と子どもたちまで、同じように迫害を受けてしまいました。

- それでも宣教師からは、キリストの愛をロシア人へ伝えたいという熱い思いは離れることはありませんでした。宣教師家族は、経済的支援が十分に受けられず、非常に困難な時期がありました。本当に耐えがたい時間でしたが、宣教師はなんと25年という長い年月も、あきらめることもなく「キリストの福音」を語る宣教活動を続けました。
- 皆さん。彼らは困難の中で、どうしてそれほどまで長い間、宣教師として献身できたのでしょうか。それは、神だけを見上げていたからです。いのちの危険や経済的困難の中でも、彼らは共におられる神だけを見上げました。神はその家庭に、恵みの雨を降らせてくださいました。

- 2人の子どもは、アメリカの名門大学で4年間全額奨学金と、生活費を受けて学ぶことができました。宣教師夫人は清掃中にみつけた、使いふるし干からびた絵具で絵を描き、ロシア公募展で見事一等に選ばれました。

彼らは栄光を神にささげました。

- 彼らは厳しい環境で、いのちの危険が襲ったような時でも、神に信頼し、神の約束を握りしめて生きました。すでに天の御国に入る祝福が与えられているからです。苦しみの中でも、ともに居てくださる神を仰ぎ信じつづけました。神の約束を信じつづけました。すると彼らは、神の祝福を流す器となりました。

- 生ける神への信仰とは、じつに幸いなものです。 **ヘブル人への手紙**

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

- 皆さん。これらのことから教えられることは、常にイエスのことを思い、イエスを心の中心に置くことです。それは愛する人を、いつも心中に思い続けるようです。イエスを思いつづける聖徒の内に、イエスは主としてお住みくださいます。イエスが主として内に住んでくださるならば、安息（平安）が与えられます。時々とか、困った時だけ、イエスを思い出すというのではありません。不十分です。
- 中心軸がぶれていると、モーターは安定して回転することができません。私たちの人生もそれと同じです。いかがでしょうか？ 私たちは、どのような日々を送っているのでしょうか？ 今、心静めて主の前に出ようではありませんか。

ま と め

主 題：「神の安息に入りなさい」

—みことばを信頼して—

- ・ 今日、私たちは本当の安息に入る人生について学びました。勤勉な労働の後には、心地よい安息がきます。それは丁度、音楽家がコンサートを終えた後に持つ「慰労会」のような、くつろぎと安息（安らぎ）のようです。
- ・ 私たちはその神の安息に入るため、忠実に歩むことは大切です。では、どのように生きるべきでしょうか。

1. イスラエルの民から学ぶ

- ・ エジプトを出たイスラエルの民は、私たちの反面教師です。神が彼らに求められたことは、置かれた場所で忠実に、そして従順に働きなさいでした。

2. 神のみことばを信頼する

- ・ 軸足がしっかりした人生は、丁度岩の上に家を建てる人のようです。その家は激しい風雨が襲っても、崩壊することはありません。
- ・ また神のみことばを信じ、受け入れる人は、30倍、60倍、100倍の実を結ぶと約束されています。神のみことばを信頼することです。
- ・ **4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも指し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。**
- ・ 神のみことばは、私の姿勢を正してくれます。今週も、神に支えられ、導かれる週となりますように！

* God bless you !